

Kobo Abe Exhibition:

An Axis of

21st Century Literature

安部公房展

21世紀文学の基軸

神奈川近代文学館開館40周年

2024年10月12日[土]—12月8日[日]

開館時間=9:30-17:00(入館は16:30まで) 休館日=月曜日(10月14日、11月4日は開館)

観覧料=一般800(600)円、65歳以上・20歳未満及び学生400(300)円、高校生100(100)円、中学生以下は無料

※(内)は20名以上の団体料金、【編集委員】三浦雅士【アートディレクション】近藤一弥

主催=県立神奈川近代文学館、公益財団法人神奈川文学振興会 後援=NHK横浜放送局、FMエフマル、神奈川新聞社、十ノ木

協賛=新潮社、京急電鉄、相模鉄道、東急電鉄、横浜高速鉄道、神奈川近代文学館を支援する会

広報協力=KAAT 神奈川芸術劇場

横浜・山手 港の見える丘公園内

県立 神奈川近代文学館

Kanagawa Museum of Modern Literature

〒231-0862 横浜市中区山手町110 Tel.045-622-6666 https://www.kanabun.or.jp

【最寄り駅】東急東横線直通・みなとみらい線 元町・中華街駅6番出口から徒歩10分

安部公房展 | 21世紀文学の基軸

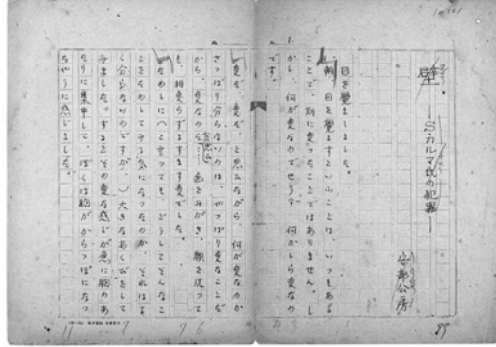
Kobo Abe Exhibition: An Axis of 21st Century Literature



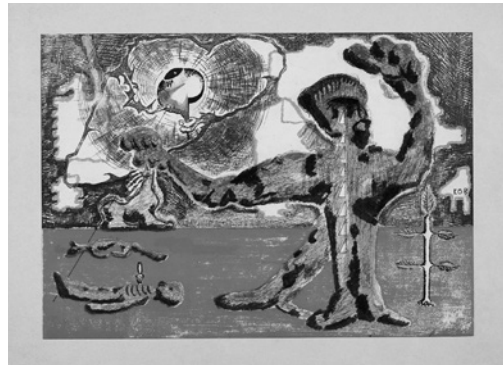
今年生誕100年を迎えた安部公房(1924-1993)。その創作活動は、学生時代の詩作から出発し、『壁』『砂の女』などの小説や「友達」などの戯曲、写真、さらに演劇グループ・安部公房スタジオによる総合芸術の追究と多岐にわたりました。自明のはずの名前や身体、居場所が損なわれることで自己が揺らぐさまや、従来の規範が突如として転倒する世界を描いた独特の作品は、いまでも国境を越え多くの読者を得ています。本展は初公開・初展示を含む数々の資料により、時代の先端をとらえ続けた表現者・安部公房の全貌に迫るとともに、21世紀の今日において安部作品のテーマが持つ意味を問い直します。



1990年(平成2)ころに箱根の書齋で使用していた発想メモボードボードには未完の遺作「スプーン曲げの少年(後に「飛ぶ男」)」に関するメモが貼られている。



「壁-S・カルマ氏の犯罪-」原稿 「近代文学」1951年(昭和26)2月号に掲載ある朝、胸の空虚感とともに目覚めたカルマ氏は、名前を失ったことに気づく。本作で第25回芥川龍之介賞を受賞。



安部公房作「エディプス」(「世紀画集」) 1950年12月 版画(贈写版) 「世紀画集」は公房、桂川寛、勅使河原宏らが参加した若手芸術家のグループ「世紀」制作による版画集。



旧蔵の盗聴器
長編「密会」(1977年)で重要な役割を果たす小道具。



8インチフロッピーディスクを取めたファイル
夥しい推敲を重ねる公房は、執筆にいち早くワープロを導入した。

[本展記念イベント] *詳細はホームページ等でご確認ください。

1. 対談「成長する壁と覗き穴」

10月27日[日] 14:00-

出演:近藤一弥(デザイナー、本展アートディレクション)、三浦雅士(評論家、本展編集委員)

料金:一般1,200円(友の会会員1,000円)

2. 対談「安部公房と戦後の政治・芸術運動」

11月4日[月・振休] 14:00-

出演:刈部直(政治学者)、鳥羽耕史(文学研究者)

料金:一般1,200円(友の会会員1,000円)

3. 対談「安部公房または「現在って何?」

11月17日[日] 14:00-

出演:川上弘美(作家)、三浦雅士

料金:一般1,200円(友の会会員1,000円)

4. 文芸映画を観る会「砂の女」

11月22日[金]、23日[土・祝] 各日13:30-

1964年、モノクロ、147分、DVD上映 ©一般財団法人草月会

監督:勅使河原宏 原作・脚本:安部公房

出演:岡田英次、岸田今日子 ほか

料金:一般1,000円(友の会会員800円)

*文芸映画を観る会(当日入会可・無料)及び神奈川近代文学館友の会向け会員制行事です。

5. スライドトーク(職員による展示説明)

会期中の毎週金曜日 14:00-

参加無料(要展示観覧料)・申込不要

○1-4=要事前申込。お電話(045-622-6666)またはホームページの申込フォームで、お名前・電話番号・希望日・人数をお知らせください。料金は当日のお支払い、先着順で定員になり次第締め切ります。

○会場:1-4=展示館2階ホール(各日定員220名)

5=展示館1階エントランスホール

[次回展示]

2025年1月5日(日)-3月9日(日)

常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち 第2部 芥川龍之介から中島敦まで」

[ACCESS]

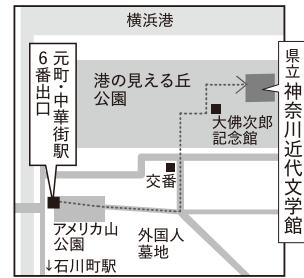
・(東急東横線直通・みなとみらい線) 元町・中華街駅下車6番出口(アメリカ山公園口)から徒歩10分

・(バス) 神奈川中央交通バス11系:桜木町駅-保土ヶ谷駅/横浜市営バス20系:桜木町駅-山手駅/観光スポット周遊バス「あかいくつ」

いずれも「港の見える丘公園前」下車、徒歩3分

・(JR根岸線) 石川町駅下車 元町口(南口)から徒歩20分

*駐車場がありませんので、公共の交通機関等をご利用ください。



表面・写真提供:新潮社 Design: Kazuya Kondo



本展特設サイト

ジャンルを越境する安部公房

◎ 新潮社

箱男 (新潮文庫) | 今夏、映画化の問題作 | 死に急ぐ鯨たち、もぐら日記 (新潮文庫) | 8月28日発売

安部公房写真集 | 世界的作家が語る、その思想

『砂の女』『壁』など既刊文庫全19点、電子書籍版も好評配信中!

生誕100年『安部公房 21世紀文学の基軸』

神奈川近代文学館で開催される安部公房展の公式図録。

幼少期からの記録写真、自筆原稿ノート、書簡、書籍、写真から、カメラをはじめとする遺品の数々まで、多彩な活動を伝える貴重な資料を多数掲載。

写真提供:新潮社

A5判上製/総248ページ/予価3,000円+税/2024年10月20日刊行予定/平凡社刊